

# 学年だより

富士市立吉原北中学校 第2学年  
学年テーマ

「夢の実現を目指して f f 編」  
～迷ったら挑戦！困ったら挑戦！～  
令和6年6月1日 NO・3

## 魅せた！最高の方程式C<sup>4</sup>

天候が心配された林間学校でしたが、二日間とも好天に恵まれ、すべての活動を予定通り行うことができました。二日間の林間学校の様子を紹介します。

一日目、湖畔キャンプ場に到着すると、バスの中で「わー！きれいなキャンプ場！」「湖が光っている！」などの声上がり、子ども達の目が輝きました。入所式で、管理人の三浦さんに挨拶をし、次に『謎解きウォークラリー』を行いました。15名のふれあい協力員の方が地図の分岐点に立ってくださり、その範囲の中で謎を解いたり、ミッションを行ったりします。一クラス50問の謎解きカードが配られ、まずは、作戦会議です。50問の問題には、全員で解かないとまらない問題や色々なジャンルの問題、探さなければならないものなどがあり、班で分担して、解いていきます。先生から出されたミッションは合格するとシールがもらえ、得点が高くなります。分担が決まると、掲載された写真のものを探しに行く班や難しい数学の問題を解く班など、それぞれの活動を行いました。班員が離れるのは許されず、「難しい～」と悲鳴を上げながら、仲良く歩き回っていました。終了時刻になると、解答用紙にそれぞれの班が解いた解答を書き込み、提出です。解けたものもあれば、最後まで解けなかったものもあったようです。この謎解きウォークラリーを制したのは2組でした。

次の活動は、カレー作りでした。3名のふれあい協力員の方が加わり、バンガロー前のかまどで作業が行われました。林間学校に行く前に、家庭科の授業でポトフの調理実習を経験したので、カレーの水の量もちょうどよく、失敗した班はなかったです。ご飯はなべで炊くのが初めての生徒が多く、最初に入れる水の量で、硬さに違いがあったようで、カレーコンテストの勝敗を左右したように思います。カレーコンテストでは、一口ずつ小さな紙皿に出されましたが、思ったより量が多く、担任はジャッジよりそれを食べるのが大変だったようです。高得点になるよう、紙皿に手紙を書いたり、ニンジンにハート型に切ったり、置くときに「〇〇注入～♪」と言ったり、かわいい子ども達の様子が伺えました。調理用具の片付けでは、お互い助け合いながら活動していました。炊事場に残されたおたまやしもじを見つけると、本部の生徒が、「マイクでアナウンスをさせてください。」と言い、道具の管理の仕方について話していました。教師が指示を出さなくても自分たちで考え、きちんと動く姿に感動しました。時間内に全ての片付けが終了し、次のキャンプファイヤーの活動にいくことができました。

キャンプファイヤーでは、第1部で「遠き山に日は落ちて」を子ども達が歌うと、火の神に扮した那須先生が火の子たちと一緒に登場しました。火の子たちは、それぞれのクラスで決めた誓いの言葉、1組は『Champion』のC、2組は『輝かしい』のC、3組は『color』のC、4組は、『正しいことは美しい』のCを言って、神から火をもらいました。

第2部では、ステージでスタンツの発表会を行いました。トップバッターの4組は、「ちょっと大きなニンジン」という台本から振り付けまで、すべて子ども達が考えた劇を披露しました。最後にちょっと大きなニンジンでカレーを作る話は林間学校にもつながり、工夫がある楽しい劇でした。

2組は、Bling-Bang-Bang-Born をみんなで歌い、踊りました。動きがぴったりと合い、ウェーブなどで変化を付けたり、人数を増減したりしているダンスはクラスの一体感を感じました。2組が終わると、ある生徒が、後ろで見ていた小林剛先生に気付き、みんなのコールが…これには剛先生も出ないわけにはいかず、前に出て一言お話をくださいました。こうなると、子ども達の高揚感は益々と上がりました。3組はゲームの世界をステージに写し、クイズに答えられると武器が手に入るという、観客を巻き込む参加型スタンプでした。最後に、母が登場し、スマホを取り上げて壊す



というおちがとても面白かったです。ラストは1組でした。日常のありがちなことをみんなに伝え、「あるある」とこぶしを振り上げて言うのには、思わずクスッと笑ってしまい、ネタをよく考えてあるなど思いました。最後にサプライズで教員がスタンプを披露し、その後、みんなでジンギスカンを踊ったり、テーマソングの「キセキ」を肩組んで歌ったりしました。夜空に包まれた暗闇の中で、火を囲んだ一つの輪は、少し離れたところから見ると、幻想的な世界でした。

第3部は、火を分散させ、学級ごとのボンファイヤーでした。そこで炎を見つめながら、一人一人がこれからの決意や生き方、クラスに願うことなどを静かに語りました。消えていこうとする炎とは裏腹に、心にともった炎は大きくなるうとしていました。

21時からはリーダー会議が行われました。5分前に教師が部屋に入ると、すでに各クラスの生活係は輪になってクラス会議を行っていました。並んで待っていると思ったので、その成長には驚かされました。KDYT（こんな時どうする予想トレーニング）の効果を感じた一場面でした。リーダー会議では、よかった点や次の日につながる改善点が出されました。

夜中、大雨が降りましたが、次の朝には、雨も上がり、炊飯活動ができました。クリーン作戦では、ここまでののかというぐらい子ども達は清掃を隅々までしました。道具の返し方も、来た時よりもきれいにし、数をきちんとそろえて返却することができました。キャンプ場を去る時、管理人の三浦さんから、「先生たちの指示がなく、ここまでの自分たちで考えて活動できる学校は、ここ数年色々な学校を見てきたけれどないよ。」とお褒めの言葉をいただき、帰校式ですぐに子ども達に伝えました。何か月も準備に時間を掛けてきた中で、少しずつ判断力や企画力を付けてきた成果が、この二日間の様子を見た方に伝わったのは、子ども達の学びと成長があったからだこそと思いました。

解散式では、成果を認め合う場面と次につながるステップを考える場面がありました。後期からは2年生が主軸となって学校を動かしていきます。生徒会役員、専門委員長、部活動の部長など、リーダーも学年から学校を動かすこととなります。こう考えると、中学校三年間はあっという間かもしれません。この林間学校で得た教訓を今後生かして、子ども達がさらに成長していったらと思います。

ふれあい協力員の方々や、保護者の皆さまの御協力のおかげで、安心・安全を第一にした二日間が大きなトラブルもなく過ごせたと思っています。これからも、子ども達の見守りをよろしく願いいたします。